

## ■3(2) 者面談が始まります

来週から面談期間が始まります。1・2年生については、担任の先生と「この1年間の取り組み」と「進路選択に向けての準備」についてしっかり話を詰めておきましょう。年明けは、実質「次学年の0学期」。この冬休みで1年間の反省を行い、1月からは2(3)年生としての生活を送るつもりで、面談に臨もう。終了後に「よし、頑張ろう」と思えるような面談にしたいですね。

3年生についてはいよいよ本番に向けての最終的な打ち合わせになります。今回の面談の主な目的は

- ① 本人、保護者、担任でのしっかりとした情報共有・・・皆が同じベクトルで目標に向かえるように
- ②  $\alpha\beta\gamma$ プランの確認・・・共通テストでどんな結果になってもすぐに対応できるように
- ③ 私立大出願校の決定・・・共テ利用でどこをとるか、一般入試でどこに挑むか
- ④ 後期・私大・浪人等の最終的な押さえどころ・・・しっかりとした見通しと意思をもった選択を

などではないかと思えます。また、共通テスト利用私大の出願は、年明けすぐに始まるものが多いですので、調査書の申請も早めに済ませておきたいものです。終業式までに申請がなされたものについては年明け始業式の日に渡すことになります。調査書をもらったらすぐに出願できるよう、ある程度の段取りは済ませておきましょう。

## ■3者面談(台本) こんな感じ・・・だといいな

面談というと「気が重い」という人もいるかもしれませんが、本来この面談は「**生徒自身が自分の言葉で自分の将来の夢とその戦略を語る場**」であり、「**周りのサポーターがその夢の実現のためにできる支援を一緒に考える場**」であることをお忘れなく。

担任: 本日はお忙しいところありがとうございます。それでは3者面談を始めさせていただきます。まずA子さんから、現在の志望校についての考えを話してください。

A子: 今はX大学のK学部を第一志望としています。現時点では模試の判定もCやDが多く、まだ厳しいですが、入学時からの目標でもあり、共通テストまでは簡単に諦めずに頑張りたいと思います。

担任: 直近の模試だとボーダーまであと20点くらい足りないようですが、対策は考えていますか?

A子: 現状では理科の2科目めと地歴がまだ仕上がっていません。この1カ月は、この2科目を重点的に学習し、それぞれ10点上乗せを目指します。ただ共通テストの結果によってはY大学、想定外の点をとってしまったらZ大学も考えています。できれば国公立大を優先したいので、中・後期で県内のT大学を押さえたいです。

担任: 分かりました。私立の併願校についてはどうですか?

A子: (受験カレンダーを見せながら) 共テ利用のR大学と、2/1に高崎で受験するS大学は、模試判定でもコンスタントにA判定が出ているので、まずここで早めに合格を確保しておきたいと思います。それから共テ私大のK大学とL大学、2/6のM大学を受験予定です。M大学は、本命のX大学と難易度や傾向、配点がよく似ており、進学先の候補の1つとしても魅力があります。本番に向けての予行練習としても挑戦したいと考えています。

担任: 分かりました。A子さんとは面談で志望校について話を聞いており、共通テストの結果を踏まえて本人の希望を尊重して判断させたいと考えています。ご家庭の方で何かご意見はございますか?

保護者: 家でも子供とよく話し合っており、本人の希望を応援したいと考えていますが、もっと滑り止めを受けた方がいいんじゃないか、とかいろいろ心配で・・・

担任: 私大の受験は費用的にも体力的にも負担が大きく、受験数の増減はお子さんによく相談して検討していただければと思います。その際この受験カレンダーが参考になると思います。また、御家族の心配もつきないとは思いますがあまり過敏になるとお子さんのプレッシャーも大きくなります。「どんな結果でも受け入れるから思い切って挑戦してごらん」と背中を押してあげることで共通テストの点も20点は変わると思いますよ。

保護者: じゃあ、さっきの20点はそれで埋まるじゃないですか!。何とか一緒に頑張ってみます。

担任: では、第一志望の現役合格を目指して頑張りましょう。私大出願用の調査書は、20日までに申請すれば年明けすぐに受け取れます。受領後すぐ出願できるよう準備しておいてください。では、これで3者面談を終わりにしたいと思います。本日はありがとうございました。

志望校への道のりは様々です。いろんな人がいろんな経験をもっていて、様々な選択肢（アドバイス）を考えてくれます。その中から最も効果的な戦略を探すのが重要です。自分だけの狭い考えに固執するあまり、外からのアドバイスに初めから耳をふさぐのは考えもの。もちろん最終的には自分で判断すべきものですが、そこまで「こんな考え方もあるんだ」と柔軟にアドバイスを聞き入れるゆとりのある人のほうが最終的には上手くいくものです。

## ■「チームMJ」共通テスト必勝秘作戦会議を行いました

3学年では1カ月後の共通テストに向けて、LHRの時間に共通テスト作戦会議を行いました。あらゆる不安要素を排除して、余裕をもって受験に臨む心構えを伝授しました。共通テストで起こり得る、様々なことに冷静に対応できるよう、持ち物や注意事項などについては年内に把握しておきましょう。「作戦会議」の概要をまとめてみました。

### ★共通テスト前日まで「備えあれば憂いなし」

- ・「受験票」と「受験案内」を改めて確認しよう（すべてはそこに書いてある）
- ・2日間を通じて「余裕をもって動く」ことが大切
- ・試験開始は10時前後。朝型にリズムをあわせ、6時には起床する習慣を今から作る。8時に正門にいるシミュレーションを（皆で集まってリラックスして入場→自分の陣地をしっかりと確保し試験会場、トイレ、本部の探索→心穏やかに試験開始を待つ）。
- ・会場に持参するもの（チェックリスト参照）の確認、前日の晩、当日朝にもう一度確認。体調急変に対応した準備も。
- ・高ぶって眠れなくても全く心配ない。緊張下においては集中していれば1日や2日はどうにかなる。1日目の夜は必ず爆睡だから大丈夫！
- ・多少の体調不良なら本試験で受けた方が有利（追試は東京会場、難易度up、出願準備も1週間遅れ）。ただし発熱したら仕方ないので割り切るしかない。とにかく健康管理を徹底。
- ・生活に気を配り、罰があたらないよう心掛けて過ごす（交通ルールを守る、人に優しくする、徳を積む）。受験の神様に微笑んでもらえるようにする。

### ★共通テスト当日「信じる者は救われる」

- ・いつもと違うことは絶対にしない。特に飲食（トンカツ等の揚げ物、栄養ドリンク、飲みなれない薬）。服装規定はないが普段通りの制服が皆の勝負服。
- ・2日間で極端にペースを変えない。10分遅く出たところ到着が30分遅くなることもある（無用な焦りを産む）。
- ・緊張するのは皆同じ。緊張を感じたら「深呼吸」と「ツボ」と「成功のイメージ」。不安をなくそうとするのではなく不安な気持ちと正直に向き合う。言葉にしたための。キャンディーやチョコレートなどもリラックス効果大。「勝負」と思ったら「自分だけの仙豆」。自分なりのリラックスグッズを用意しよう（推し♥の写真など）。
- ・不測の事態が生じたら些細なことも迷わず本部。
- ・1科目目の地歴は「難しい」前提で。最初からがっかりしないためにも、欲をかかず無難にできれば十分と考える。まず往路（1日目）を無難に乗り切れれば、復路（2日目）で勝負できる。
- ・終わった後の話はしない。合言葉は「想定内かな（笑顔とともに）」。全日程終わるまで解答は見ない。間違えた問題ばかりが印象に残ります。
- ・問題が難しかったら「ラッキー」。しっかり勉強してきた者にとっては難化したほうが有利。自分の得点が30点下がって全国平均が50点下がっていたら上々の出来だったということ。
- ・空き時間も外出しない。外出した後でアクシデントに見舞われて戻れなかったらその時点で失格。

### ★共通テスト後「人事を尽くして天命を待つ」

- ・アンケートによれば、「期待ほどとれなかった」と思う受験生が6割。共通テスト後に勉強が手につかなくなった生徒が半数近く→この1週間が大逆転の最大のチャンス
- ・「自分はできた」とか「何点だった？」とかデリカシーのない発言は慎む。
- ・難易度により平均点は大きく変動する。全国の動向が分からないうちから勝手に悲観的になったり浮ついたりしない。
- ・特編期間中に人や学校から離れない（決して孤立してはいけない）。学校を休んで自宅や塾にこもるのが典型的な失敗への近道。
- ・LHRと体育の時間を上手に活用。気分転換を上手に行える人が成功する。
- ・結果が悪くても軽々しく「浪人する」なんて言うてはいけない。最後まで頑張り抜く意思がなければ浪人しても伸びない。浪人は最後まで必死に頑張った者だけが親にお願いして「させていただく」ものである。